

平成24年4月1日発行

会員各位

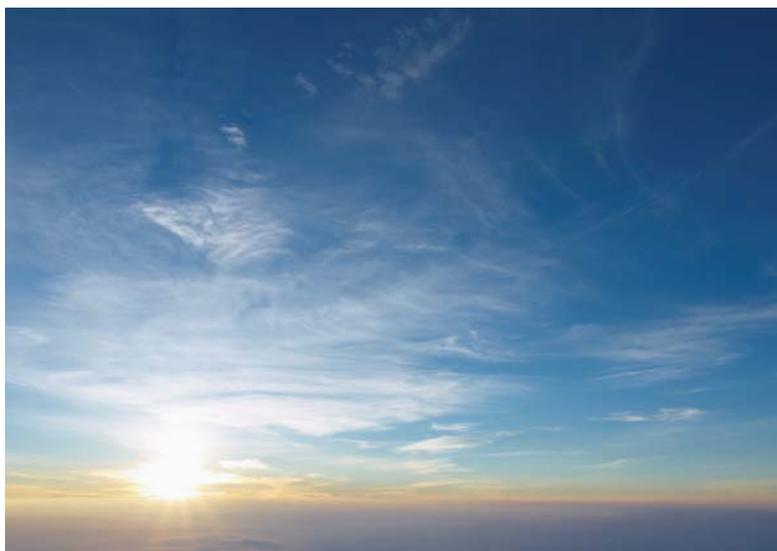
# 協会だよりー232(4月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

## <トピックス>

- 第37期総会が開催されます。開催日は4月24日(火)または25日(水)のどちらかですが、4月9日の役員会で決定されます。ご了承の程お願い申し上げます。開催時間は午後4時からでございます。  
開催会場：JXグループ・六本木クラブ2階会議室・地階和室



Photograph:Kiyoshi Naito

- 協会よりのお知らせ  
【実施済事項】
- 【予定事項】  
一. 経産省よりの連絡  
二. 会員会社の社長交代と担当者の交代  
三. 第二五回JSCRA会を開催  
四. 事務局より(四月度の予定)  
五. 【雑学】奥の細道・バスツアー(5-1)  
六.

## 1. 協会よりのお知らせ

### 【実施済事項】

- ① **協会だよりー231(3月号)** をメール&郵便で送信(3/1)
- ② 第二回調査・技術委員会  
日時：平成24年3月13日(火) 15:00~17:00  
場所：日興リカ(株)会議室  
出席：委員長、部会長3名、専務理事
- ③ 第七回運営委員会  
日時：平成24年3月15日(木) 15:30~17:00  
場所：堺化学工業(株)会議室  
出席：委員長、委員5名、専務理事

議 題 : 平成24年度の月例会の担当等

- ④ 平成24年度年会費請求書の発送(3/16)

**【予定事項】**

- ① 会計監査

日 時 : 4月5日(木) 10:00~12:00

場 所 : 太陽鋳工(株)東京支店会議室(千代田区丸の内)

出 席 : 監事、会計、専務理事

- ② 第一回役員会

日 時 : 4月9日(月) 10:30~12:00

場 所 : (株)徳力本店会議室(千代田区鍛冶町)

出 席 : 役員、専務理事

- ③ 定期総会資料送付・2011年分資源化実績報告書送付(4/10) メール便にて

- ④ 第37期(平成24年度)定期総会

日 時 : 4月25日(水) 16:00~17:00

場 所 : JXグループ・六本木クラブ会議室/和室(港区六本木)

出 席 : 会員会社

**2. 経産省よりの連絡**

- ・【機1】総合資源エネルギー調査会省エネルギー部会中間とりまとめパブリックコメント結果(3/1)
- ・【機1】東日本大震災一周年追悼式の当日における弔意表明について(お知らせとお願い)(3/5)
- ・【機1】(周知依頼)今夏の東電管内小口需要家向け節電・ピーク対策メニューについて(3/12)
- ・【機1】技術研究組合50周年シンポジウム(3/27@ベルサール半蔵門)開催ご案内(3/12)
- ・平成23年度自家発電設備導入促進事業費補助金(3次補正予算繰越分)に係る公募について(3/12)
- ・【被害状況確認】3月14日(水)21時5分頃<茨城県南部、千葉県北東部>震度5強(3/14)
- ・【機1】(お知らせ)今夏の電力需給見通しについて(3/15)
- ・【調査依頼:期限3/22 15:00まで】原料資源の確保について(3/19)
- ・【周知依頼】東京電力値上げに関する追加情報提供(契約関係)について(3/27)

**3. 会員会社の社長交代と担当者の交代**

**【日誠金属(株)殿】**

2月24日、株主総会、取締役会にて佐藤邦彦殿が社長へ就任いたしました。

○ 直井 仁司殿 代表取締役社長 ⇒ 取締役会長へ

○ 佐藤 邦彦殿 常務取締役 ⇒ 代表取締役社長へ

**【三菱マテリアル(株)殿】**

4月1日付で協会の担当者が交代いたします。

浅見 誠殿、高木 真言殿、石井 惑殿 ⇒ 谷口 徹殿、室 隆昭殿へ

#### 4. 第25回JSCRA会を開催

3月9日(金)一日中、雨の中では有りましたが、中山カントリークラブ(千葉県八千代市)で協会コンペ(JSCRA会)が行われました。協会のOB4名を含め16名の参加がありました。実は昨年3月に中山CCで予定していたのですが、未曾有の東日本大震災が発生し、諸事情もあり中止になっていました。その後、会員より中山CCでの開催要望があり、太陽鉦工(株)の紹介で今回開催にこぎ着けました。

優勝は実力者の新崎俊光氏(堺化学工業株式会社)がハンディ2ながら獲得いたしました。BBは小林尚道(事務局)となりました。参加の皆様、雨の中のプレーご苦労様でした。次回より改正したハンディをいたしますので奮って参加ください。



優勝の新崎俊光氏

#### 5. 事務局より(4月度の予定)

| 曜日 | 月    | 火         | 水       | 木     | 金     | 土     |
|----|------|-----------|---------|-------|-------|-------|
| 1週 | 2    | 3         | 4       | 5     | 6     | 7     |
|    | ×    | ○         | ×       | 会計監査  | ○     | ×     |
| 2週 | 9    | 10        | 11      | 12    | 13    | 14    |
|    | 役員会  | ○         | ×       | ○     | ○     | ×     |
| 3週 | 16   | 17        | 18      | 19    | 20    | 21    |
|    | ○    | 奥の細道ツアー⑥⇒ |         | ×     | ○     | ×     |
| 4週 | 23   | 24        | 25      | 26    | 27    | 28    |
|    | ○    | 37期総会は    | 24日か25日 | ×     | ○     | ×     |
| 5週 | 30   | 5/1       | 5/2     | 5/3   | 5/4   | 5/5   |
|    | 振替休日 | ×         | ×       | 憲法記念日 | みどりの日 | こどもの日 |

事務局延べ出勤予定：13日(○；終日、△；半日、×は休日)。

5. 【雑学】奥の細道・バスツアー (5-1)

芭蕉さんは黒羽にて2週間、さらに殺生石・遊行柳見物に3日と下野の国に長期滞在していましたが、いよいよ決心しておくの細道・奥州に向かいます。おくの細道バスツアーは昨年12月に栃木県那須町芦野の遊行柳見学を最後にお別れしていましたが、3月6日~7日の一泊二日で福島県の白河から再開となりました。奥州の三大関所として鼠ヶ関(新潟県・山形県境)、勿来の関(茨城県・福島県境)、白河の関(栃木県・福島県境)が有り、私たちは白河の関(白河の関公園内)に向かいました。江戸時代、既に白河の関は無く、芭蕉さんもしっかりと関所の跡地は判らなかつたようです。江戸時代に芭蕉さんの通つた奥州街道は現在国道294として狭いながらも舗装の整つた道路となっています。

《境の明神》

国道294号の栃木県側と福島県側の県境に各々神社がありますが、旅の安全を祈願して進むほうを男神、迎え入れる方を女神と二つの神社を置いたといわれています。この神社では自分の方を玉津島神社、相手のほうを境明神と呼んでいます。さてバスは294号線を数キロ北に進んで右に入り関の森に向かいます。



栃木県側の神社



栃木と福島の県境



福島県側の神社

《白河の関(関の森)》

おくの細道の本文でも、須賀川の章で等窮(相楽伊左衛門)に「白河の関いかに越えつるや」と問われていますが、長旅で疲れ、かつ風景が素敵で心を奪われていたのであつたという間に過ぎてきてしまいましたと答えています。実際は関の場所がはっきりしないので探して歩き回つたと曾良の日記にあるようです。

寛政十二年(1800)白河藩主の松平定信の考証により、現在の関の森が白河の関所があつた場所として古関蹟碑が建てられています。白河の関は歌枕の地として古



古関蹟碑

来多くの和歌に詠まれています、歌碑の中にある和歌は次の通りです。



おくの細道本文に、この関は三関の一つにして、風騒の人心をとどむ。秋風を……とあるように能因法師の歌「都をば霞とともに立ちしかど秋風ぞ吹く白川の関」平兼盛の歌「便りあらばいかで都へ告げやらむけふ白川の関は越えぬと」梶原景季の歌「秋風に草木のつゆをはらわせて君が越ゆれば関守もなし」（源頼朝へのよいしょと見られる）歌碑が置かれています。



加藤秋頓の揮毫によるおくの細道白川の章の文章を記した銅版を埋めこんだ碑が公園内にあります。

白川の章では、芭蕉さんはおくの細道に「卯の花をかざしに関の晴れ着かな」曾良と詠んでいます。古人、藤原清輔が関を越えるとき冠をかぶり直し装束を正装に改めたとありますが、芭蕉さんは正装の用意がないので、卯の花の枝を折ってかざし、正装の代わりにしましょうと興じた俳句です。

現在この地は関の森公園として白河神社、道の駅も併設され駐車場も完備した観光地となっています。2月末に東京でも雪が降りましたが、さすが福島県南部といえども雪が残り、人里はなれた場所を旅する奥の細道ツアーでは山道の登りは良いのですが下りの歩行に難儀しました。



バスのツアーでは必ずしも芭蕉さんの辿った順ではなく、先の地に向かいました。そのため、芭蕉さんは白河から須賀川に向かいましたが、私たちは見学時間の都合で須賀川は翌日見学ということで歌枕の地「安積山」(現在：郡山市日和田町)に向かいました。

《安積山》

「いづれの草を花かつみとは云うぞ」とかつみの花を求めて安積山を訪ねています。花かつみはひめしゃがと言われアヤメ科アイリス属に属していると云われています。



おくの細道本文には安積山に付いてはさらっと数行の記載で、日が暮れてきたので急いで二本松に向かったとなっております。旅の行程は詳しくは曾良旅日記に載っているため、現在その足取りが良くわかるようになりました。ひだりの説明板は曾良の旅日記を記しています。

私達の今晚の宿は磐梯熱海温泉の「四季彩一力」です。《須賀川》は5-2として来月号に紹介します。

【文責・専務理事】